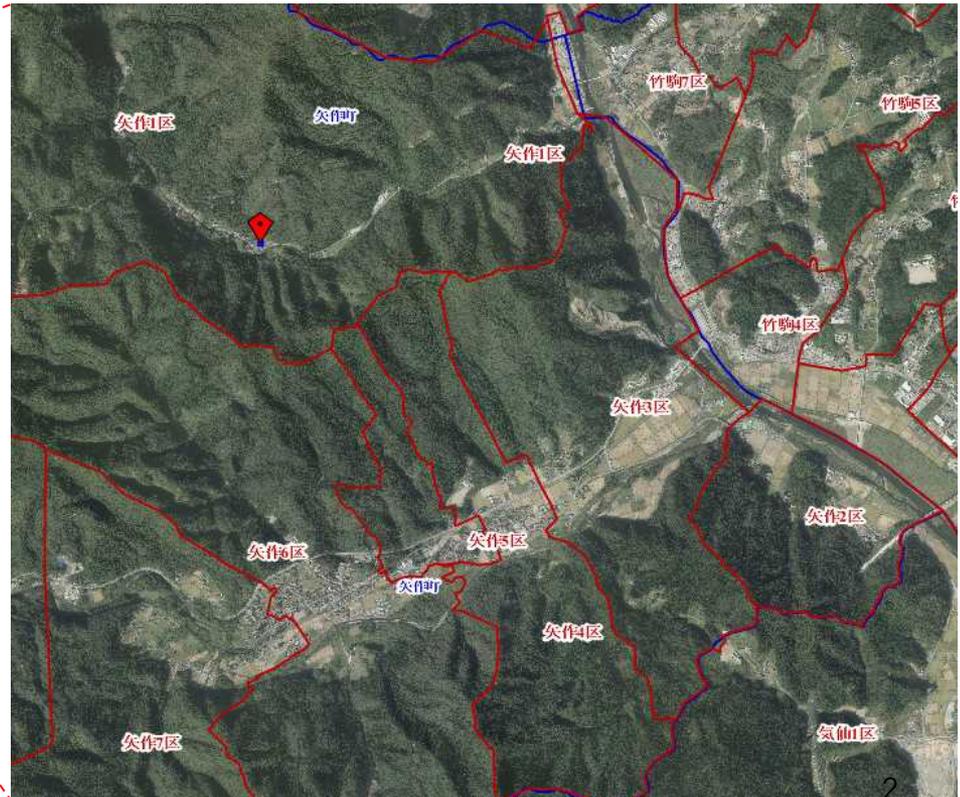


陸前高田市〈下矢作地区〉の概要・地勢



世帯数・人口	265世帯・696人
65歳以上	301人 (43.2%) ※うち後期高齢者 173人 (57.5%)
備える災害	水害(矢作川・気仙川の氾濫)、土砂災害、地震災害、津波災害
行政区	矢作町1～7区の7つの行政区からなる。



下矢作地区 土砂災害・洪水ハザードマップ

陸前高田市・下矢作地区コミュニティ推進協議会



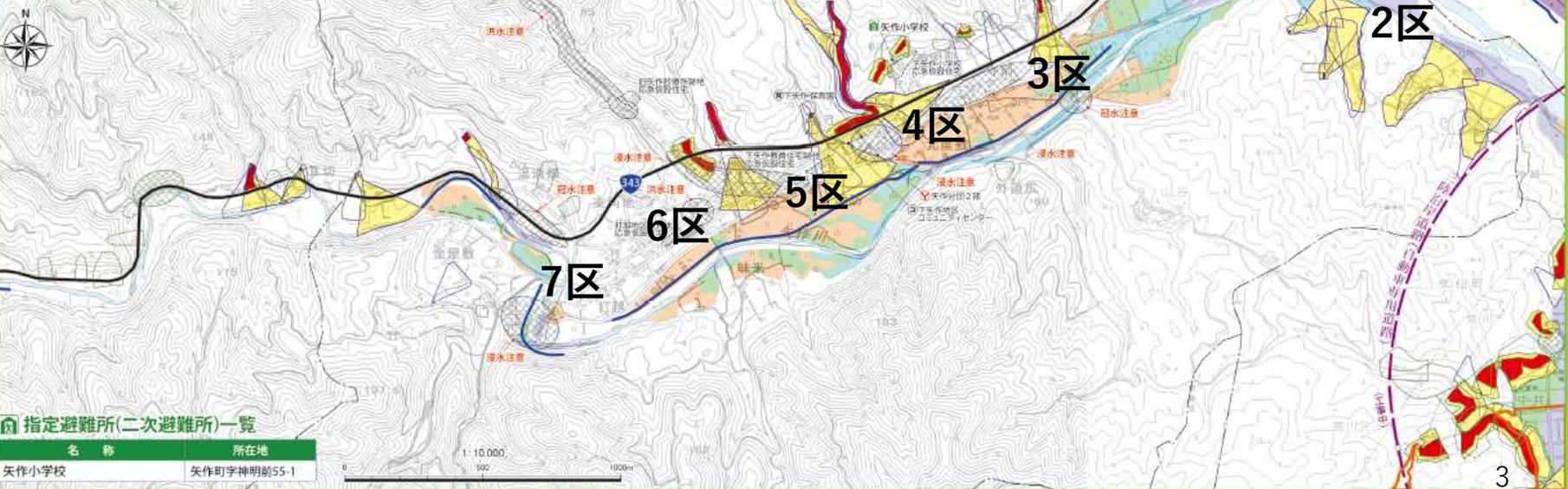
このマップに示した浸水想定区域や土砂災害危険箇所等の区域外であっても、雨の降り方などの状況により、浸水災害や土砂災害が発生する可能性がありますので、ご注意ください。

このマップについて

- 大雨によって河川氾濫した場合の浸水状況や、土砂災害警戒区域・特別警戒区域、避難所などを示しています。
- このハザードマップに示した浸水状況は、シミュレーションに基づいた結果を示しています。
- このハザードマップに示した土砂災害(特別)警戒区域は、土砂災害防止法に基づいて地形・地質等の基礎調査を実施して指定した区域を示したものです。

施設等凡例

	二次避難所		土石流
	保育所・保育園		要注意箇所
	コミュニティセンター		土石流が発生する危険性のある箇所
	消防団花所		土砂災害警戒区域
	病院		土砂災害特別警戒区域
	土地区画整理事業がけ崩れ		土砂災害特別警戒区域
	防災集団移転促進事業		土砂災害特別警戒区域
	災害公営住宅		土砂災害特別警戒区域
	高齢仮設住宅		土砂災害特別警戒区域
	国道		土砂災害特別警戒区域
	県道・主要地方道		土砂災害特別警戒区域
	自転車専用道路		土砂災害特別警戒区域
	重要水源地		土砂災害特別警戒区域
	行政界		土砂災害特別警戒区域
	町界		土砂災害特別警戒区域
	その他		土砂災害特別警戒区域
	その他		土砂災害特別警戒区域
	その他		土砂災害特別警戒区域



指定避難所(二次避難所)一覧

名称	所在地
矢作小学校	矢作町字神明前55-1

下矢作地区の課題と目標・スケジュール

■課題と目標

- ・ 想定最大規模の大雨による洪水では地域全体が浸水し、土砂災害の危険性が高い地域であり、孤立地区も想定される。
- ・ 警報発令時には、各行政区において避難が必要な世帯が多くある。
- ・ 地区内に安全に避難できる場所が少ないため、広域避難が必要である。
- ・ 高齢化率が高く（43.2%）、避難する際は、地域での協力体制が必要である。
- ・ H30年度に自主防災組織を立ち上げ、実績が少なく、今回の県事業を活性化のきっかけとしたい。

■スケジュール

R1年（2019）

9月10日：事業説明会

9月～10月：アンケート調査

11月23日：1区ヒアリング

：7区ヒアリング

11月24日：6区ヒアリング

11月27日：2区ヒアリング

11月29日：3・4区ヒアリング

12月 2日：5区ヒアリング

R2年（2020）

2月19日：2区 避難場所協議

2月20日：7区 避難場所協議

※新型コロナウイルス感染予防の観点から次のワークショップを中止

・ 矢作川洪水浸水想定に基づくハザードマップの説明会（3月）

・ ハザードマップに基づく避難方法について（3月）

■事業説明会（R1.9.10）

○H30年度に引き続きモデル事業として実施する旨の説明。

※H30年度の活動

- ・ コミセン会長、事務局長に趣旨説明（H30.9.21）
- ・ 各行政区長、役員に趣旨説明（H30.10.22）
- ・ 豪雨災害時の危険マップの作成（H30.12.14）
- ・ 災害時の問題点と対応方法についてのワークショップ（H31.1.25）



○R1年度の活動予定について

各行政区ごとにヒアリング調査と現地調査を行う旨の説明。

〈調査項目〉

- ・ 人口構成（世帯数、人口、昼間人口、自力歩行困難者、消防団員等）
- ・ 地区概要（地区の集会等の回数や内容）
- ・ 防災訓練の実施状況、備蓄状況、地域資源等
- ・ 地区内の危険箇所（地震時、洪水時）
- ・ 防災、減災に関する問題点

■ヒアリング・現地調査内容

行政区 (地域名)	人口構成等	地区概要	防災訓練、備蓄状況、地域資源	危険箇所	防災・減災に関する問題点
1区 (雪沢)	<ul style="list-style-type: none"> ・21世帯、53人 ・65歳以上 23人 (43.3%) ・後期高齢 14人 ・小中学生 1人 ・昼間人口 23人 ・独居 3人 ・自力歩行困難 2人 ・消防団員 1人 ・民生委員 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪沢川上下流域 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の訓練に合わせて実施 ・備蓄なし ・避難は雪沢公民館へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪沢川右岸左岸全域 ・土砂崩れの発生危険箇所 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難意識の欠如 (油断、安全意識)
2区 (嶋部)	<ul style="list-style-type: none"> ・23世帯、55人 ・65歳以上 27人 (49.1%) ・後期高齢 14人 ・小中学生 2人 ・昼間人口 28人 ・独居高齢 3人 ・自力歩行困難 1人 ・消防団員 3人 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災で被災 ・気仙川、矢作川の氾濫で孤立 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の訓練に合わせて実施 ・備蓄倉庫あり ・米、野菜の提供は可能 ・井戸は一つあり (飲料水としては不可) 	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙川沿い ・側溝3箇所 	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙川、矢作川の川床が上がってきていて堤防が氾濫する可能性がある。
3区 (越戸内、寺前、中島)	<ul style="list-style-type: none"> ・22世帯、66人 ・65歳以上 33人 (50.0%) ・後期高齢 27人 ・小中学生 6人 ・昼間人口 33人 ・独居高齢 4人 ・消防団員 1人 ・民生委員 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・矢作川下流部に位置 	<ul style="list-style-type: none"> ・H30.7に土砂災害・洪水訓練実施 ・避難場所は観音寺、矢作小学校 ・備蓄なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・矢作川近く ・土砂災害特別警戒区域 ・土砂災害警戒区域 ・山谷地区は孤立の危険 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼間人口33人で後期高齢者27人をいかにして早く避難させるか。 ・非常時に誰が誰を見守り、手助けをするか。

■ヒアリング・現地調査内容

行政区 (地域名)	人口構成等	地区概要	防災訓練、備蓄状 況、地域資源	危険箇所	防災・減災に関する 問題点
4区 (元屋敷、神明 前)	<ul style="list-style-type: none"> ・31世帯、96人 ・65歳以上 31人 (32.3%) ・後期高齢 8人 ・小中学生 6人 ・昼間人口 39人 ・独居 0人 ・自力歩行困難 1人 ・消防団員 1人 ・民生委員 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・矢作川下流 域 ・東日本大震 災津波到達 地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の訓練に合 わせて実施 ・備蓄なし ・矢作小学校 (避 難所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・神明前地区 (沢水の増水、 土石流の発 生) ・元屋敷地区 (矢作川の堤 防決壊、旧国 道の側溝) ・矢作小裏山 (土砂崩れ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線が聞 こえない ・避難意識の欠 如 ・避難所が矢作 小の2階である こと(高齢者困 難) ・矢作川治水工 事の早期着工
5区 (元屋敷、諏 訪)	<ul style="list-style-type: none"> ・40世帯、82人 ・65歳以上 40人 (48.8%) ・後期高齢 22人 ・小中学生 5人 ・昼間人口 53人 ・独居高齢 6人 ・消防団員 2人 ・民生委員 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・矢作川下流 域 ・コミュニ ティセン ター、派出 所、屯所、 保育園あり ・味米に水位 計あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の訓練に合 わせて実施 ・備蓄あり(コ ミュニティセ ンター ・毛布、タオル、 リヤカー、炊飯 具、水タンク 	<ul style="list-style-type: none"> ・矢作川の堤防 決壊 ・農業用水路の 氾濫 ・土砂災害危険 区域 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多く 正式な組織図に なっていない。 ・訓練は健常者 のみの参加で、 障がい者等の 避難誘導が不安。 ・災害により 避難場所が異 なるので安否 確認が難しい。

■ヒアリング・現地調査内容

行政区 (地域名)	人口構成等	地区概要	防災訓練、備蓄状況、地域資源	危険箇所	防災・減災に関する問題点
6区 (片地家、東角地)	<ul style="list-style-type: none"> ・64世帯、178人 ・65歳以上 72人 (40.4%) ・後期高齢 48人 ・小中学生 7人 ・昼間人口 100人 ・独居高齢 5人 ・自力歩行困難 8人 ・消防団員 8人 ・民生委員 1人 	過去の災害 <ul style="list-style-type: none"> ・旧道矢作駅付近の冠水 ・市道等から県道への土砂流出 ・広桶沢、夫婦石沢の氾濫、土砂流出等 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の訓練に合わせて実施 ・備蓄なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・味米橋付近大雨による堤防決壊 ・旧道矢作駅付近の冠水 ・市道等から県道への土砂流出 ・広桶沢、夫婦石沢の氾濫、土砂流出等 ・土砂災害特別警戒区域、洪水浸水想定区域 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼間は高齢者が多く活動が大変。 ・要支援者の避難 ・独居でデイサービスに通所している人の情報がないので近隣の方を頼るしかない。 ・区独自の訓練ができていない。
7区 (打越、金屋敷、湯漬畑)	<ul style="list-style-type: none"> ・64世帯、166人 ・65歳以上 75人 (45.2%) ・後期高齢 40人 ・小中学生 5人 ・昼間人口 83人 ・独居高齢 7人 ・外国人 1人 ・自力歩行困難 8人 ・消防団員 5人 ・民生委員 1人 	矢作川と市道、国道343号沿いの集落で、山と山に囲まれた地区。	<ul style="list-style-type: none"> ・市の訓練に合わせて実施 ・備蓄なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・土石流区域 (金屋敷、湯漬畑、耳切地区) ・水害、矢作川の氾濫 (金屋敷、打越) 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難道路の確保 ・防災無線が聞こえない

■ヒアリング・現地調査の結果から

- 各行政区のコミュニティーはとても強固であり、ほとんどが顔見知りである。
- 高齢化率が高く、後期高齢者も多い。
- 行政区同士の連携が出来ているところと、地形的な問題から連携が出来ない地区も存在する。
- 大雨による浸水や土砂災害の危険性が高いところが多くあることから、地区内において避難所として使用できるところが少ない。



- 防災力の向上を図るためには、各行政区が協力することが一番であるが、まだその段階ではなく、各行政区の強固なコミュニティーで自主防災組織を運営した方が良いとの考えに至った。
- まずは災害頻度が高い洪水被害に対応するために、地区外の避難所への避難を検討することが重要である。



■ 2区、7区の避難場所について①

〈2区〉



2区公民館は、土砂災害警戒区域にかかっており、公民館避難は危険である。そのため行政区外への避難が必要。

〈7区〉



7区は、矢作川の右岸と左岸に分かれており、特に右岸は逃げ場がないため、行政区外への避難が必要。

■ 2区、7区の避難場所について②

【協議前】

- ・ 小学校の避難所の方が土砂災害の危険性が高く遠いので、避難所は近くの公民館が良い。
- ・ 大雨が降っているときの避難は、とても危険なので、地区内で垂直避難を選択した方が良い。
- ・ 過去の大雨でも、ここは大丈夫だった。



令和元年台風19号の際の宮城県丸森町の被害状況と課題を例に協議



【協議後】

- ・ 地区内の避難は危険であることを確認。
- ・ 市街地の高田地区の避難所の方が設備が整っていること、早めに避難することで安全に避難できることを理解。
- ・ 以上から避難場所を変更することとする。



■今後の計画について

- ・令和元年9月に公表された想定最大規模の降雨による矢作川の洪水浸水想定を考慮すると、各行政区において避難が必要な世帯が多いことから、避難場所の変更を検討するとともに、避難方法についても各行政区で検討を行う。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、十分な事業の遂行ができなかったことから、令和2年度も引き続き、下矢作地区自主防災会の育成に取り組むこととする。